



平成27年5月20日

笠岡市議会議長 金藤照明 殿

建設産業委員会
委員長 田口忠義

行政視察復命書

このことについて、次のとおり報告します。

記

- 1 日 時 平成27年5月12日(火)～14日(木)
- 2 参加者 【建設産業委員会】 委員長 田口忠義 副委員長 東川三郎
委員 栗尾順三・齋藤一信・齋藤重雄・坂本公明・妹尾博之
【随員】 議会事務局 遠田秀数

3 視察先及び視察概要

(1) 5月12日 富山県魚津市議会

産業建設部長 川岸勇一 様

農林水産課水産振興係長 館 和生 様

◎さかなブランド化推進事業について

魚津市は、北洋漁業の最盛期には鮭鱒漁船団の基地として魚津港は数十隻にもおよぶ鮭鱒漁船で賑わいがあつた。鮭鱒漁業だけでなく、富山湾の深海に生息するベニズワイやバイ貝等の漁業も漁場の開発等その先駆的役割を果たしてきた。

しかし、欧風化した現代の食事の影響や日本人のライフスタイルの変化によって、一般家庭の食卓での魚離れが進行し、漁業者の高齢化・後継者不足がこれに拍車をかけている。また、消費者の好み優先され、規格化されやすい輸入水産物の流通が促進され易いなど、地域的特色を売りにしたい地元漁協には、かなりの追い風となっている。

これらの現状による産地市場での魚評の平均価格アップのため、漁獲物の付加価値向上・ブランド化戦略を活動方針として取組みを展開している。

①市場統合と高度衛生管理型市場の運営（漁獲物の品質確保）

魚津市場、経田市場を統合し完成した高度衛生管理型市場（おさかなブランド）は全国

に先駆ける水産物荷さばき施設として今日に至っている。産地市場の統合、高度に衛生管理を行うなど、国策に沿った取組みを行ってきた結果、市民をはじめとする消費者に対し水産物の安定供給と共に安全安心を届ける可能となっている。

②魚食普及と地産地消の取組みについて

魚津の朝市で焼き魚を基本とした定食の販売を継続、さらに教育委員会および学校給食センターと連携して郷土の味をしっかりと定着させる試みとして、魚津産魚介類の提供や学校での食材勉強会を開催してきた。JA関係者による農作物との連携による販売によって地域住民への供給と共に食の伝承を行っている。

③地域内での付加価値化・地域ブランド創出・6次産業化の取組みについて

市内外の加工業者および大学教授による有限責任事業組合（LLP）を設立、ホテルイカを中心とした加工を展開、重荷生活協同組合向け販売を実施した。

地域ブランド化の取組みとして、魚種にウマズラハギを選定、魚津寒ハギとネーミングし、その中でもブランド条件を満たした「如月王」をトップとして、定着化を図ってきた。富山ブランドや富山県農林漁業振興会表彰を受賞している。

ファーストフードが好まれる現状に鑑み、ウマズラハギのフライをパンで挟んだ寒ハギドックを試作販売。県内外のイベントに参加し、知名度アップと採算性へのチャレンジを行っている。

④漁場環境生態系保全活動

沿岸水産資源の減少が叫ばれ、特に大きな原因として、日本各地沿岸での藻場の衰退が指摘されている。海藻を食害する生物の駆除をはじめ、藻場再生の元となる母藻や海藻種苗の海中投入やアマモの移植、山林での植林等を行っている。

(2) 5月13日 新潟県糸魚川市議会

産業部建設課長 見辺太 様

議会事務局次長 松本靖 様（前糸魚川駅周辺整備事業課）

市議会 新幹線・港湾等交通網対策特別委員長 樋口英一 様

議会事務局係長 室橋淳次 様

議会事務局主事 横澤亮 様

糸魚川市観光協会 滝川一夫 様

◎糸魚川駅および駅周辺整備事業について

北陸新幹線の開業に向け整備が進められてきた糸魚川駅である。在来線と新幹線の乗換え等の利便性やバリアフリー化のため、南口駅前広場市道糸魚川駅南線と共に、南北自由

通路を整備し利便性を図った。

駅周辺には、パークアンドライド駐車場（100台程度の平面式）や駐輪場（300台程度の平面式）を整備しているが、乗降客の調査を行い台数等を設定した。また、駅前広場は、周辺住民の声を考慮しフラットな状態を保っている。

駅舎内には、ジオパーク情報発信コーナーやジオラマ鉄道模型ゾーンなどを整備し、郷土の自然情報発信や老若男女・マニアにも盛況を浴びる施設となっている。

隣接した施設は、「ヒスイ王国館」観光物産館を整備して観光客へのPRを行っている。

また、駅から日本海まで400mの近さを景観軸として商店街の整備も行った。古くから発展してきた口の字商店街の「口の字軸」を基本に、糸魚川駅と日本海を結ぶヒスイロードを景観軸、みいちゃん通りをアメニティ軸と位置づけ活性化の軸としている。

(3) 5月13日 長野県飯山市議会

経済部農林課長 今井吉春 様

経済部農林課長補佐 江尻浩和 様

農林課農業振興係主査 霜鳥雄樹 様

農業再生協議会てんたい倶楽部担当 清水謙一 様

議会事務局長 関谷竹志 様

◎農村定住支援住宅・てんたい倶楽部について

①農村定住支援住宅

主に農業に従事する人たちの定住を勧めるため、その初段階（概ね2年間）に安価な住宅提供を目的として建設された。農村定住支援住宅は温井多目的交流センターに併設されている。

温井多目的交流センターは、温井交流館と農村定住支援住宅という二つの機能を持っています。交流館は、農村と都市の交流および良好な地域コミュニティの形成を目的とし、温井地区の出張診療所も設置されています。

農村定住住宅は2戸あり、それぞれに8畳の和室、風呂、トイレを備えています。家賃は月額2万円です。

②てんたい倶楽部

「てんたい（手伝い）倶楽部」とは、短期（1日～）の農業体験を通し、農業理解を深めると共に、労働力が不足する農繁期に労働力を提供する倶楽部です。

農家の手伝いをしていただける「てんたい衆（しょう）」と、「てんたい衆」の受け入れ希望する「農家」（認定農業者）を募集し紹介する。

作業時間は、原則として午前9時から午後4にまで。時給は1時間750円。交通費なし。

(4) 5月14日 鳥取県・岡山県

◎とっとり・おかやま新橋館（アンテナショップ）について

JR新橋駅の銀座口からすぐに位置するアンテナショップは、1階に鳥取県と岡山県で生産された自慢の特産品や民芸品などを展示・販売している。

2階には、鳥取県、岡山県の食材を洋風アレンジして、食事を提供している。ランチタイムは新鮮な野菜を、カフェタイムは旬のフルーツ、ディナータイムはビール、日本酒、ワインなどの地酒と組み合わせ地元の味を提供している。

また、観光情報や移住の相談などに応じる窓口も設置している。